

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

間取り図の作成とその模型製作（多くの生徒が最も興味を示し、真剣に取り組む教材）を核に据え、「生徒各自の求める住空間を仲間とともに見つけ出す」という目標を掲げた本校の教材（授業）が、貴社の本募集要項に合致するのではないかと考えました。

本教材は、冊子も模型キットも全て手作りなので、教材づくりに時間がかかり、先生方への負担が非常に大きいため、できれば、業者に頼みたいのでその費用を援助してほしいと考えました。

2. 学習予定の概要を(イ)(ロ)に触れながら以下のA.B.C.3点について記入してください。

(イ) 気づき（児童生徒に気づきをどう促すか）

(ロ) 自ら調べ考える（児童生徒にどう考えさせるか）

A. 中心となる活動

① 「自分らしく住むにはどんなことに気をつけたいですか？」2人で話し合いの後、発表

② 住空間の簡単な講義の後、模型製作（玄関と水廻りを北西の角にまとめた案の第1段階まで）

③ 玄関と水廻りの壁だけが塗りつぶしてあり、冬至の午前10時（兵庫県明石市）の採光図が書き込まれた**未完成間取り図**（子供室が白抜き壁になっている）と**②の模型**を見ながら、グループディスカッション（2人でも）……「壁がなければ光はどこまで射し込んでくるか」「この壁がなければこんな生活ができる」「子供が小さいときは、壁なしのワンルームならこんな生活ができるよ」「友達をよんでパーティーするときはこの壁邪魔じゃない」等等。

④ **未完成間取り図**の壁を塗りつぶし、開口部（戸、窓）を仕上げる。

⑤ これを見ながら、残りの模型を完成させる。（浴槽、便器、台所流し台、冷蔵庫が作れるとよりリアルに住空間の体験ができる。）

B. 授業の狙いと特徴(住生活向上の視点を含めてお書きください)

生活感が薄く、住宅に興味がない（無意識で、食べて寝る、という生活を繰り返している。）生徒には、自分で作った間取り図と模型をみながら、空間として感じることを体験させることが効果へとつながると考えています。

C. 学習の流れ(指導計画)

1時間目【マイホームプランニング No1 使用】

- ① 2人一組で「自分らしく住むにはどんなことに気をつけたいか」意見を出し合い、発表する。
- ② 暮らし方、住み方について、プリント文章の穴埋め
- ③ 間取り図作成上の注意点についての解説
- ④ 1坪 \approx 3.3㎡の解説

2時間目【マイホームプランニング No3, 4 使用】

- ① 間取り図とバブルダイアグラム
- ② エスキース（単線プラン）からの間取り図の作り方

3・4時間目【マイホームプランニング No2 使用】

- ① 模型作り（玄関と水廻りまで）
- ② 未完成間取り図と①の模型を用いて、住空間について考える。（問題点の洗い出し）
- ③ 残りの模型を完成させる。
- ④ 2人一組で「自分らしく住むにはどんなことに気をつけるか」意見を出し合い、発表する。

3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関わりについてお書きください。

私の千葉県における調査において、高等学校家庭科住居領域授業の所要時間数は「家庭基礎」で平均 4.6 時間、最多校数の 4 時間（占有率 41.4%）、「家庭総合」で平均 7.3 時間、最多校数の 6 時間（占有率 29.2%）であり、仮に、実習のみで授業を完成させる場合でも、4 時間の所要時間が必要となることがわかりました。一方、座学授業の場合は 4 時間が確保されないと、不十分なながらも住領域全体の座学を成立させるためには 4 時間が必要となることがわかりました。

したがって、本授業は 4 時間でも実施可能な実習授業としました。（6 時間；自主設計の追加、8 時間；街並み計画を組み込んだ課題あり）特に、私立学校の場合「住居領域」は実施しない学校が多いため、所要時間 4 時間の授業時間とし、「住居領域」不実施校なしの状況が実現できることを目標にしています。

その他特記事項がありましたらお書きください。

本授業は、所要時間 10 時間の「平面図の作成を核に据えた住教育の授業」（平成 14 年度修士論文；加倉井砂男著）から、20 年をかけてほぼ完成したものです。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。